（図書を使って、自分の課題を調べる方法を知る）

（　４　）年　　活動名　総合　自分の課題を図書で調べよう

実践者　日吉小学校　　石井　和子

１．平成１８年１０月１９日

２．ねらい
障害のある人、点字や手話の読み物などの本の紹介から、自分の課題解決の手がかりや本の探し方などをつかみ、調べ学習の方法を知る。

３．活動の流れ

活動及び取り組みの流れ	支援
①自分の課題を確認する。	類似の課題をもったもの同士のグループでまとまり、自分の課題を意識させるようにした。
②目や耳に障害のある人、点字や手話の本の紹介を聞く。 ・ 目に障害のある菜歩ちゃんの家庭、学校盲学校での様子 ・ なぜ点字は指先を使うのか ・ 目の不自由な人の日常品の紹介 ・ 耳に障害のある香菜ちゃんの学校、もうひとつの学校、普段の生活の様子 ・ 耳に障害がある人にあったとき ・ 簡単な手話からはじめよう	「バリアフリーの本１，２，３，４」『「バリアフリー」ってなんだろう４，６』「やってみよう！はじめての手話１」などの本を使い。ブックトークの形を取り、短時間で多くの本を紹介した。 自分の課題がさらに広がるように、また、こんな本を使えば課題が解決できそうだと見通しが持てるように心がけた。 鉛筆で手のあちこちをさわり指先が敏感であること、簡単な手話をみんなでやってみるなどの体験をした。
③本を使って自分の課題を調べる。 ・ 紹介した本の中から ・ 図書室の本を使って	教室の中に、紹介した本や題名だけ紹介した本をもとにコーナーを作った。 コーナーの本や図書室の本を使い、調べ学習をした。 図書室では、以前に学習した分類にも目を向けさせ、本を探すように声がけした。
④次時（国語）の予告	図書の他にコンピューターも使って調べてよいことを伝えた。

４．この取り組みによって、子どもにどのような変化（成果）がありましたか。
　国語の『「伝え合う」ということ』の学習で、もっと調べたいことを決め、グループごとに発表会を開くことにした。本を紹介したことにより、簡単な課題しか持てなかった子が「もっと○○な事も調べたい」取りかかるまでに時間がかかる子が「この本を見たい」など、進んで調べ学習をした。また、「私が調べたいことはこの本に書いてある」と自信を持って取り組む子「自分でも本をもっと探したい」という子も多く見られた。